

平成30年度 学生市民等協働プログラム 概要

部局名 保健学研究科

区分	内容
事業名	バングラデシュにおける感染症ガバナンス—教育・医療機関、環境調査を通して—
指導教員	① 保健学研究科 藤岡 美幸 ② 保健学研究科 千葉 満
学生市民等の所属及び人員	保健学研究科 博士3年 1名 医学部保健学科 4年生 1名 弘前市立病院 職員 1名 保健学研究科 修士2年 1名 東北化学薬品 職員 1名
渡航先 (渡航期間)	バングラデシュ (平成30年9月12日～平成30年9月19日)
実施 スケジュール	平成30年 8月20日 事前調査・打ち合わせ // 9月12日 青森空港出発 // 9月13日 シャージャラル空港到着、ダッカ大学打ち合わせ // 9月14-15日 環境調査 // 9月16日 病院見学 (icddr,b) // 9月17日 ダッカ大学微生物学部講義参加 // 9月18日 シャージャラル空港出発 // 9月19日 青森空港到着 // 9月25日 調査結果まとめ等
プログラムの概要	<p>1. 目的： ①バングラデシュにおける感染症多発地域の現状を環境調査により把握するとともに、ダッカ大学のスタッフ・学生とのコミュニケーションを通じてグローバルな感覚を養う。 ②ダッカ大学における感染症の講義を英語で受講し、意見交換を通して高度な感染症の専門英語や専門知識を学ぶ。</p> <p>2. 事業概要： アジア最貧国であるバングラデシュは高温多湿の気候に加え劣悪な衛生環境のため、熱帯感染症が多く、その予防対策も遅れている現状がある。本事業ではダッカ大学微生物学部の講義に参加し、感染症分野における大学教育の実情を学ぶとともに学部学生・大学院生と英語でディスカッションをし、感染症等について意見交換をする。</p> <p>3. 教育目標： ダッカ大学微生物学部の学生と英語での活発なコミュニケーションをはかる。通常の英会話だけでなく、感染症の専門用語を交えることでより高度な英語力を養うとともに、積極的なコミュニケーション力やグローバルな感覚を身につける。また、ダッカ大学微生物学部や医療機関を視察することで、熱帯地域特有な病原体の検出・培養技術や感染予防・治療法を学ぶ。</p> <p>4. 期待される成果等： ①グローバルな視点で熱帯感染症への対応ができる医療従事者を育成できる。 ②海外の人々と英語で自由に意見交換することでコミュニケーション能力を養うことができ、また新たな国際交流へとつながる。 ③未知の感染症への対策を含めた問題解決力を身につけることができる。</p> <p>5. 本事業が弘前市や弘前市関連地域にあたえる効果・成果等： 近年の国際化により、日本において輸入感染症が増加しており、弘前市や弘前市関連地域においても将来熱帯感染症患者の増加が見込まれる。本事業の実施により感染予防に関する高い専門知識とグローバルな視点をもった弘前市の医療従事者の人材育成につながる。</p>

プログラムの様子



写真1：本プロジェクト参加構成メンバー



【写真2：河川の水の採取】



【写真3：土壌採取】



【写真4：採取サンプルの処理と微生物の培養】



【写真5：下痢症患者用の専用ベッド】



【写真6：ダッカ大学微生物部門による研究発表会】

今後の展望

Bangladesh is a country with a narrow territory and over 1.5 billion people living there, and it has the highest population density in the world. Most of the citizens are Bengalis who use Bengali as the official language, and about 90% of the population are Muslims. The climate is tropical, with high temperature and humidity, and it is very hot. There are many rivers in the country, and because it is a lowland area, flooding often occurs. Because the waste disposal facilities are not complete due to administrative reasons, the sanitary condition is very poor. Because of such a situation, the spread of antibiotic-resistant pathogenic microorganisms is a problem in Bangladesh. In recent years, due to global warming, the average temperature in Japan is rising, and in Japan, the rise in temperature has brought about the danger of the spread of pathogenic microorganisms.

Such a background led us to implement the program "Bangladesh Infection Governance Education and Medical Institutions, Environmental Investigation" in Bangladesh, and we conducted international exchange with students of Dhaka University. Through the program, we conducted education, medical institutions, and environmental investigation, etc. in the local area. Through the experience, we sincerely face the future of infection control activities in Bangladesh, and we want to contribute to the activities in Bangladesh.